

使用データ： 3D設計データ（設計変更）.MSS
縦横断（設計変更）.sim

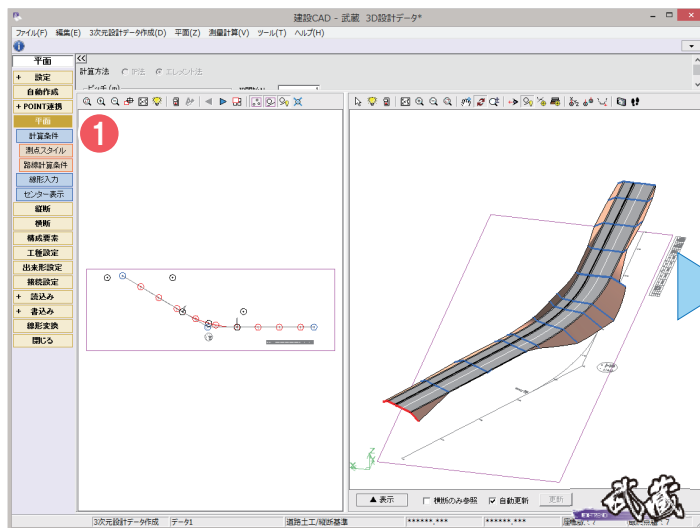


こんな時には－中間ファイルの利用

EX-TREND武蔵で3次元設計データを作成し、TREND-POINTより出力した縦横断SIMAを読み込み、現況地形とすり付ける方法についてご説明します。全断面を法面パターン、もしくは勾配固定で一気に入り付けることが可能で、現況に合わせた計画データを効率よく作成することができます。

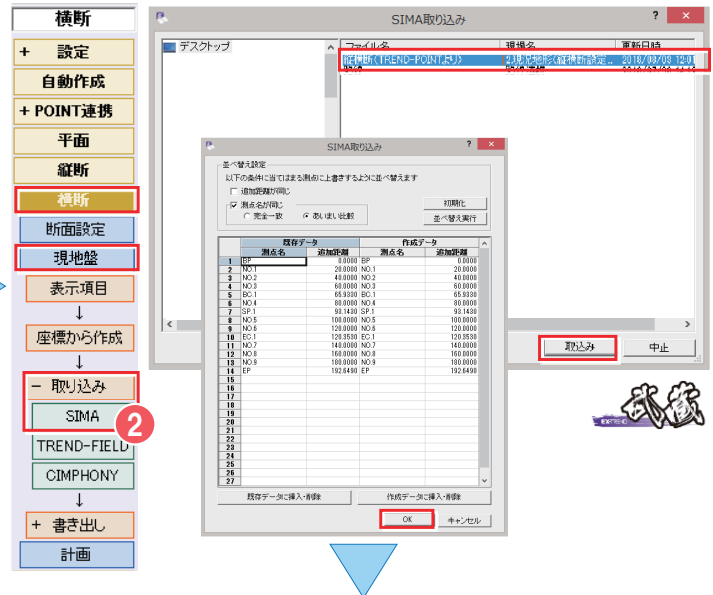
4-1. ファイル連携 現況地形データに合わせた設計変更

① 【EX-TREND武蔵】で作成した3次元設計データを開きます。

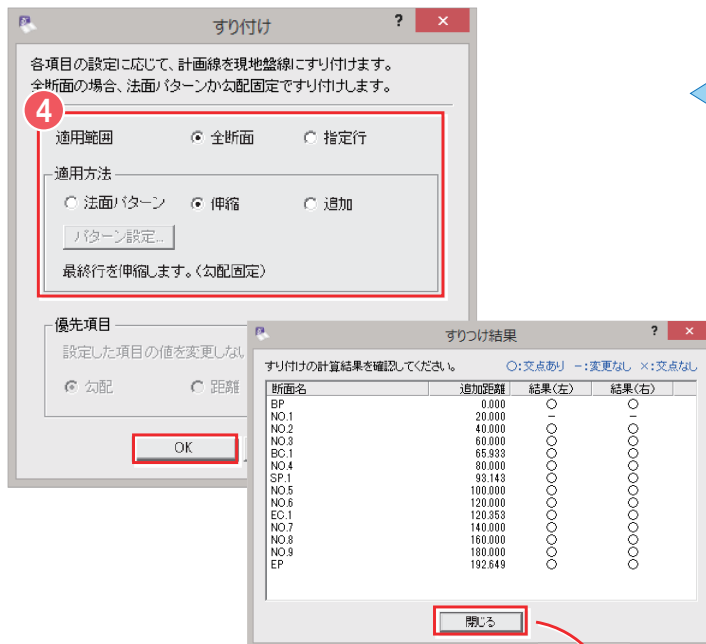


② 作業ガイドより

「横断－現地盤－取り込み－SIMA」をクリックします。
「SIMA取り込み」時、線形データを確認し【OK】をクリックします。

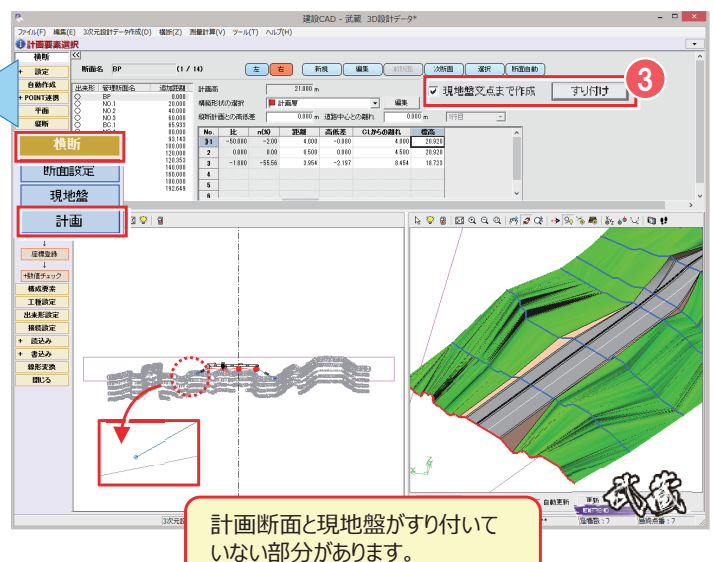


④ 「すり付け」設定をし、【OK】をクリックします。



③ 作業ガイドより

「横断－計画」をクリックし、「すり付け」をクリックします。



計画断面と現地盤がすり付いていない部分があります。

すり付いたことが確認できます。

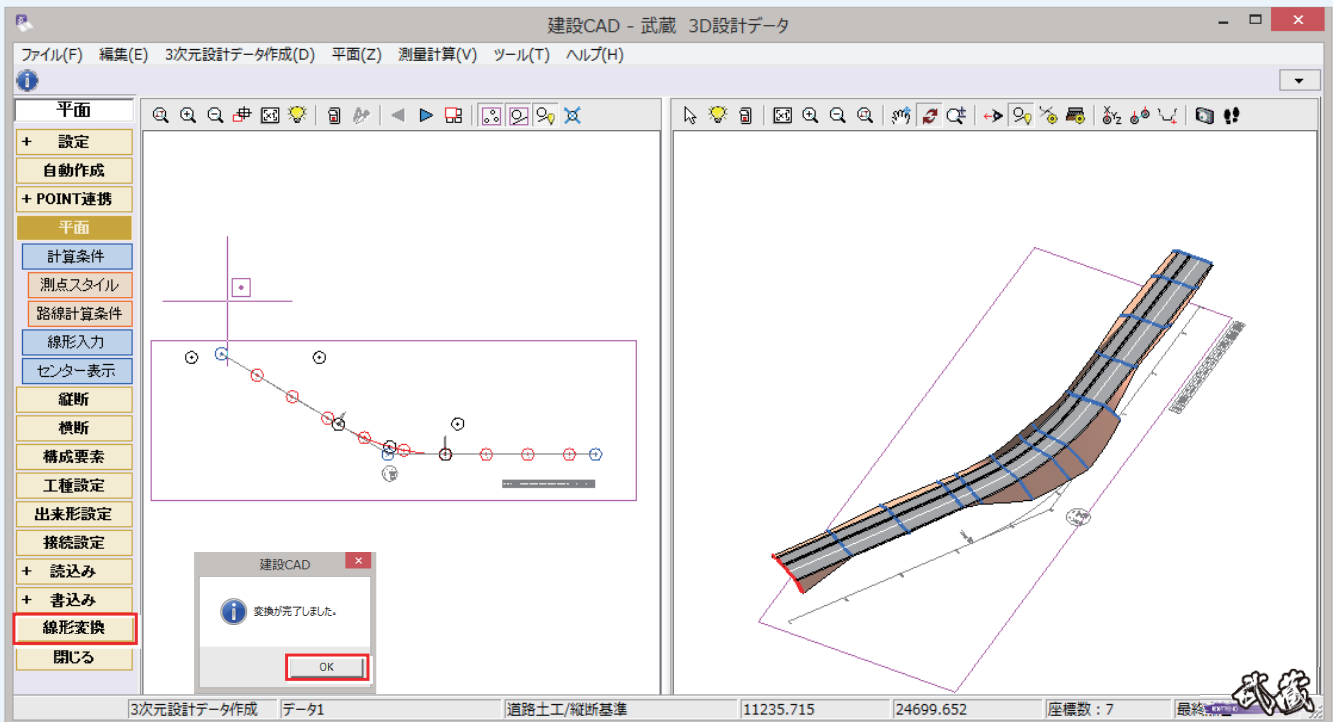


Memo

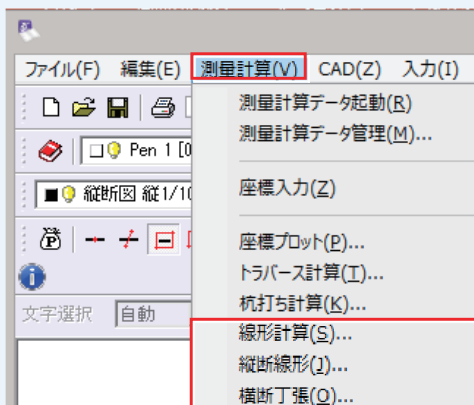
■線形変換について

・EX-TREND武蔵で作成、読み込みした「3次元設計データ」は、「線形変換」より「線形計算」「縦断線形」「横断丁張」の各作業データへ変換が可能です。

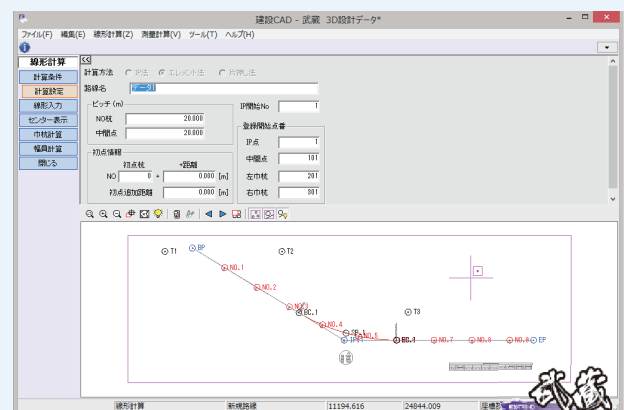
変換したデータは、各プログラムで帳票や図面作成などに利用することができます。



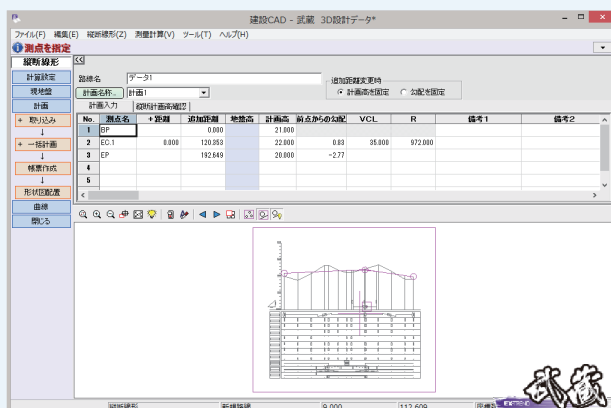
■各種メニュー



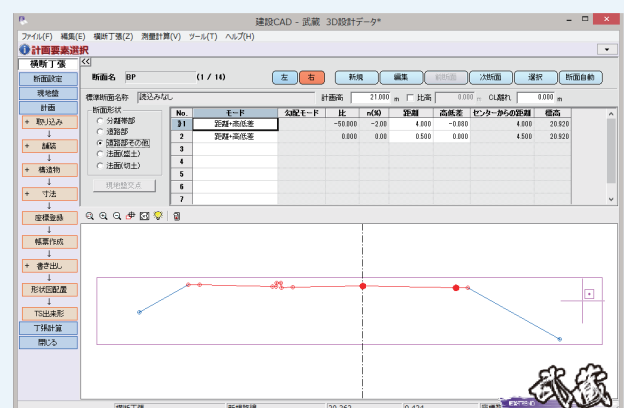
■線形計算



■ 縦断線形



■ 横断丁張

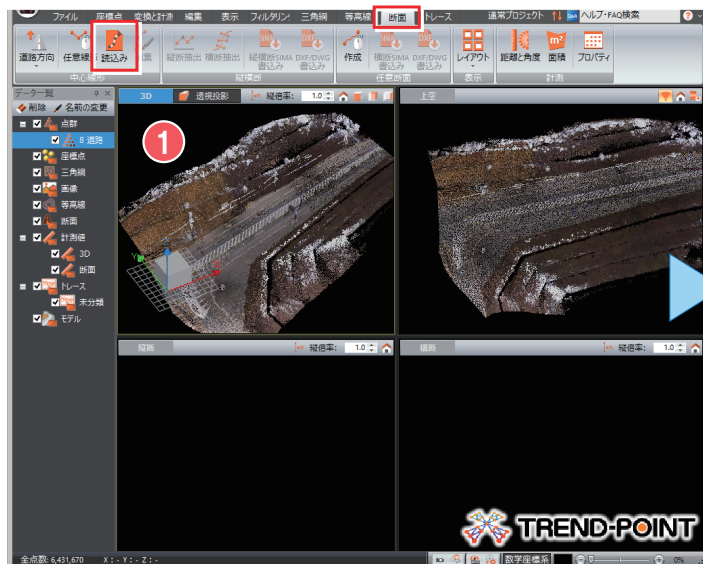


使用データ： 道路.XPT、線形（切削）.sim
縦横断（切削）.sim
位置情報付きオルソ画像.tif
位置情報付きオルソ画像.tfw

4-2. ファイル連携 点群を利用した切削オーバーレイ

TREND-POINTで抽出した縦横断データをEX-TREND武蔵切削オーバーレイオプションに取り込み、現地盤データとして利用する方法についてご説明します。

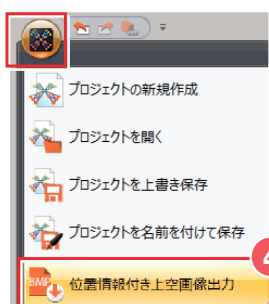
- ① 【TREND-POINT】より、点群データを開きます。
[断面] タブより、[中心線形ー読み込み] をクリックします。



- ② 路線SIMAファイルを選択し、[開く] をクリックします。



- ④ [TREND-POINT] ボタンより
[位置情報付き上空画像出力] をクリックします。



- ③ [断面] タブより
[縦断抽出] [横断抽出] を実行し、[縦横断SIMA書込み] をクリックし出力します。



Memo

■「位置情報付き上空画像出力」で保存されるファイルについて（出力形式：TIFFの場合）

- 1) 位置情報付きオルソ画像.tif
 - 2) 位置情報付きオルソ画像.tfw
- の2つのファイルが出力されます。

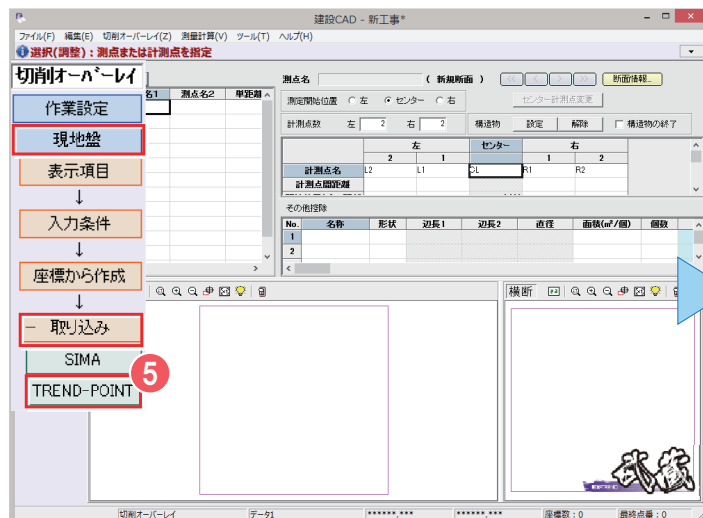


■切削オーバーレイで使用するファイルについて

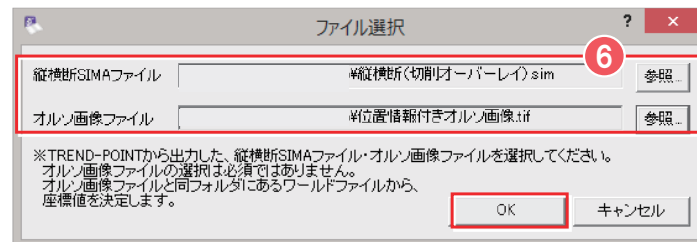
- 1) 縦横断SIMAファイル
- 2) 位置情報付き上空画像出力で保存した2つのファイル（画像ファイルは必須ではありません。）



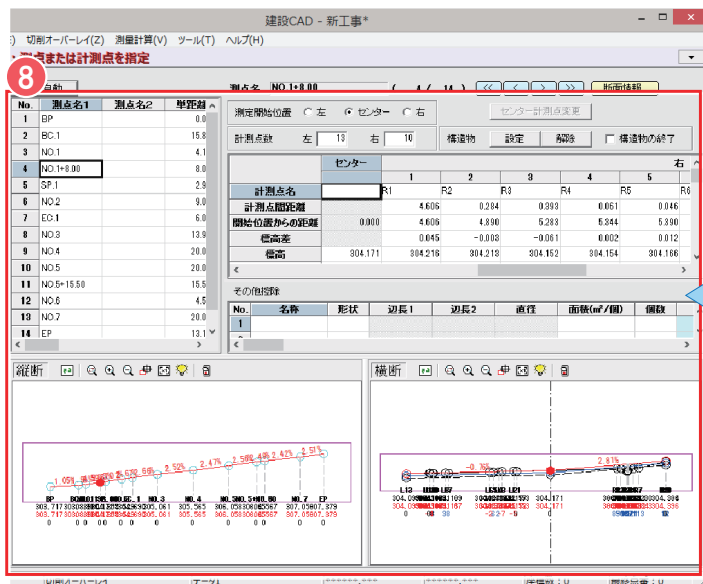
⑤ 【EX-TREND武蔵】を起動し、【切削オーバーレイ】を開きます。作業ガイドより【現地盤-取り込み-TREND-POINT】をクリックします。



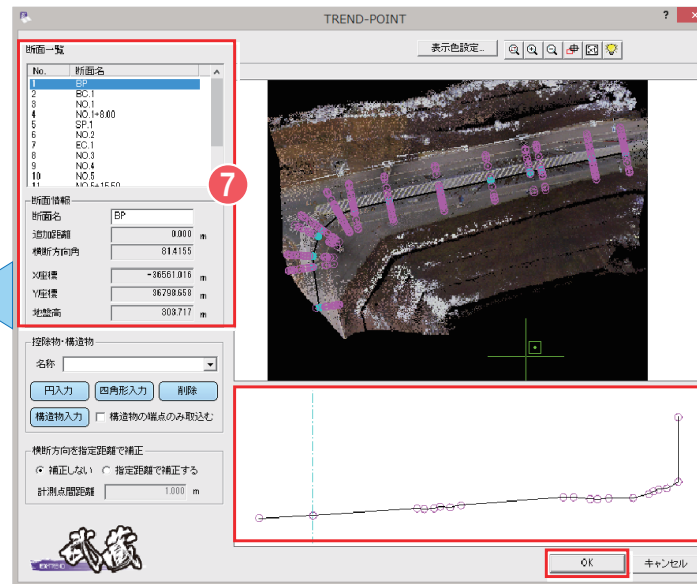
⑥ 【参照】ボタンより「縦横断SIMAファイル」「オルソ画像ファイル」を設定し【OK】をクリックします。



⑧ 現地盤データが取り込まれます。計画を入力し、帳票や縦横断図を作成しましょう。



⑦ 「断面一覧」より断面を選択し形状を確認後、【OK】をクリックします。



Memo

■ 構造物控除について

位置情報付き上空画像を取り込むことで、マンホールなどの控除物や構造物の位置を指定し易くなり、利用することができます。

